

# 淡路島内の 聴覚障害を持つ子どもたち、保護者の方 輪になろう



淡路聴覚障害者センターの初めての試みとして、聴覚障害児、保護者の悩みを共有すべく「みんな集まれ！輪っはっは！」と題した集まりを、8月19日、中川原高齢者・障がい者ふれあいセンターで開催しました。(関連記事4面)

# ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

洲本市中川原中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551

ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

8月29日、ふくろうの郷最高齢だった土居文子さん(102歳)がお亡くなりになりました。亡くなる一週間前まで、ゆっくりですが、車イスを押して2階から1階まで歩いていらっしやいました。最後の最期まで生きる意欲を見せていただきました。『土居文子自伝』にもあるように大正、昭和、平成の激動の時代を強い意志をもって生きぬいた、そんな素晴らしい女性でした。合掌。

## 11月1日 短期入所再開決定



▲ひょうご介護サポート研修で入居者と交流する参加者

短期入所事業再開に向けて「短期入所再開委員会」を設け、職員を確保すべく、学校訪問、施設見学会、また8月12日、18日と2回にわたって、県の補助事業のひょうご介護サポート研修を実施しました。サポート研修に参加された方から、「貴重な体験ができた。一人ひとり組みを続けていきます。」

にあつた介護がなされ、家庭的な雰囲気を感じられた。更に介護への知識を深めたい」との感想をいただき、中には9月の職員採用試験の申し込みを検討して下さる方もおられました。様々な取り組みが功を奏し、11月1日短期入所事業再開の目途が立ちました。それに合わせ、利用される方も募集しています。以前利用していた方、また新たに利用されたい方、ご連絡をお待ちしています。また、職員数は十分とは言えませんが、今後委員会の名を「職員確保、定着委員会」と変更し、取り組みを続けていきます。



## みんなで お盆のお墓まいりに

8月13日、亡くなった入居者さんもまつられている永代供養塔のある中川原市原の松栄寺さんに、入居者さんともども13人がお参りしました。吉見輝子さんは亡夫が好きだったお酒をお供えし、他の入居者さんも、それぞれお花を供え水を手向け、亡き人たちを偲びました。



▲神戸特別支援学校実習生楠本さんと踊る松崎恵子さん

8月5日(土)第70回淡路島祭りに参加しました。入居者、地域交流会の方々、ボランティア、職員が一緒になって、ヤットサーヤットサーの掛け声とともに本通りを阿波踊りしながら進みます。司会から「頭の横で手をひらひらとする手話の『拍手』をお願いします」とアナウンスしていただくと、浴道から沢山の拍手を送って頂き、皆さん気持ち盛り上げ楽しく踊ることが出来ました。また、来年も是非参加したいと思います。(生活援助員 伴直美)

## 今年も 淡路島祭りに参加

# ふくろう物語 八十川久雄さん

八十川さんは、盲ろう者です。ふくろうに入居される前は、加古川市で一人暮らしをされており、盲ろう者友の会の支援もあり、生活を楽しくおられました。住んでいた住宅が取り壊されることになりましたが、地域で暮らしたいという思いに行政が積極的に関わってくださり、盲ろう者友の会、加古川ろう協との連携で新しい住まいも準備されましたが、引越を目前に交通事故にあわれました。

## もどってきた意欲

現在ふくろうの郷に入居されて2ヶ月ほどになります。毎朝の会に案内し、触手話を使い職員とコミュニケーションをとる時間をもうけています。又、盲ろう者通訳介助を依頼し、料理講座等の行事にもご参加頂いて少しずつではありますが、生活に慣れてこられています。入居された頃と比べると、表情もやわらかくなり、職員が顔を近づけて手を振ると笑顔でかえしてくださいます。

## 盲ろう者友の会を支え とって

事故にあわれる前は、盲ろう者友の会に入っておられ様々な支援や盲ろう者通訳介助の方と色々な行事に参加することを暮らしの拠り所とされてきました。時々ふくろう

の郷に短期入所されていた時も意欲的な生活ぶりでした。入院された病院で久しぶりにお会いした八十川さんはまるで別人のようでした。車いすで、目もうつろで表情も暗く常にどこか不安げな表情でした。

現在、ふくろうの郷には盲ろうの方が4名います。盲ろう者通訳介助をお願いしたり、リアン会への参加で、施設内外の行事に参加していくことで、八十川さんが願っていた「地域の暮らし」に近づけていきたいです。

現在ふくろうの郷に入居されて2ヶ月ほどになります。毎朝の会に案内し、触手話を使い職員とコミュニケーションをとる時間をもうけています。又、盲ろう者通訳介助を依頼し、料理講座等の行事にもご参加頂いて少しずつではありますが、生活に慣れてこられています。入居された頃と比べると、表情もやわらかくなり、職員が顔を近づけて手を振ると笑顔でかえしてくださいます。

八十川さんの笑顔の内にはかつての生活意欲が取り戻されているように思われます。さらに密なコミュニケーションをとりたいたいです。



▲料理講座で、チキンカレーを作って食べる。

## リアン会とは

盲ろう者友の会がふくろうの郷を拠点に、淡路で生活している盲ろう者がろう協や手話サークルの人たちと交流を広められるようにとのことで、5年前から毎月開催している。最初に牛乳パックで「リアン」を作ったことから、この名前が付けられている。ふくろうの郷でお菓子を作ったり、地域にお出かけしている。

## 職員研修で再び バリデーション研修

バリデーションとは、認知高齢者とのコミュニケーション方法で、人が最後まで失われないとされる感情レベルに焦点をあてることです。

昨年引き続き、関西福祉科学大学の津村尚子教授に講師をお願いしました。津村先生は15年わたってバリデーションを研究されておられ、2度目となる今回の研修では、学んだことを日々の実践につなげていくのが具体的な実践方法も取り入れた方法で行われ、職員は真剣な面持ちで取り組んでいました。

【研修をうけての感想】  
バリデーション2度目の研修でした。センタリング(呼吸あわせ)カリブレーション(共感)で相手の心に寄り添っていく。1人1人を見つめて、係わっていくことの大切さを改めて痛感しました。デイサービスで1日に10数名の方と係り状況は違っても基本は同じだと思えます。丁寧で心を精進したいです。

(神戸デイサービス 介護職員 眞木 崇江)  
ふくろうの郷で介護の仕事をして日が浅く、認知症の入居者さんとの接し方を理解できていませんでした。

講義をうけて、認知症の方と呼吸を合わせ感情に共感して、受け入れてもらう事の大切さを学びました。バリデーションを日々の利用者さんとの関わりの中で生かしていきたいと思えます。

(生活援助員 米山 賢一)



▲バリデーションの体験に真剣に取り組む職員

# 吉見さんの里帰り



## 吉見さんの存在の 大きさを実感

ふくろうの郷で3年、吉見輝子さんから「和歌山の友人と会いたい、施設づくりの力になりたい」との希望を受けて、和歌山へ里帰りが実現しました。入居者の北川さん、福島さんと一緒に。吉見さんの希望で和歌山県聴覚障害者協会が施設運営している紀の手(就労継続支援B型事業所)を見学し久しぶりの再会を喜んでおられました。

孫、ひ孫と一緒に笑顔の吉見さん

吉見さんのご家族も来てくださり、初めてひ孫を抱っこされました。

孫、ひ孫と一緒に笑顔の吉見さん

吉見さんの存在の大きさを感ずることが出来ました。

吉見さんのご家族も来てくださり、初めてひ孫を抱っこされました。

孫、ひ孫と一緒に笑顔の吉見さん

### 初めて話す戦時中の中国での生活経験

#### 中国での生活経験

会場を移して午後からの講演には50名位の方々が集まってくれました。ふくろうの郷での暮らしの様子、生い立ちをスライドを使って話されました。吉見さんは昭和10年に和歌山市生まれで、父は「しようゆ作り」の商売をしていました。戦争が激しく商売が難しくなってきた



孫、ひ孫と一緒に笑顔の吉見さん

今年も9月16、17日と2日間にわたり、地域交流会の方にお手伝いいただき、案山子10体ができあがりしました。10月22日のふくろうふれ愛まつりで来訪者をお迎えます。



### 再会！ウエンさん



10年ぶりにここに来ました。みんなと交流し、元気を付けたい。私はここで学んだことを忘れません。」と。

淡聴協の活動や、ふくろうの郷の入居者との交流などで、再び元気になりました。

淡路高校では2年生の時に職場体験を行っています。今回、当施設を希望し、1名が職場体験に来てくれました。

初めは何をどうしたらいいかわかりませんでしたが、職員の方が優しく教えてくださり、手話を使った会話が少しくなりました。相手の言うことが分からないときは素直にそう言った方がいいという反省もありました。2日目はより手話での会話が楽しくなってきました。私が手話で伝えようとすると、相手もしっかり聞いてくれ、伝わりました。どんな時でも笑顔であれば自然と相手も笑顔になられるのだと思いました。手話は独学で学んでいましたが、ろう者の方と話す中で知らなかった手話を教えてもらえました。本格的な介護のお手伝いはできませんでしたが、手話を使ったコミュニケーションは頑張ることができました。

入居者さん、職員みなさん、職業体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

淡路高等学校 2年 西岡美紅

淡路聴覚障害者  
センター便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

聴覚障害児・保護者  
の交流の場を

8月19日(土) 淡路島内に点在する聴覚障害児と、その保護者の方たちの交流の場を作りたいという思いで企画、『みんなあつまれ！輪っはっは』を中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターにて開催し、3家族8名、2歳～11歳までの子ども達4人と保護者の方の参加をえました。

「初めまして」の  
緊張も束の間

まああるくなって自己紹介。最初は緊張からか静かだった子ども達も、椅子から離れて遊び始める頃にはすっかり仲良くなり、お手玉入れや輪投げでは、年上の子が小さい子に教え

「継続して開催して欲しい」「他の聞けない友達や先輩にも会ってみたい」「また参加したい」

絵合わせカルタ、何枚取れたかな？



みんなあつまれ！輪っはっは♪

てあげたり譲ってあげたり、優しい場面もたくさん見られました。保護者の方からは「聴覚障害を持つ子ども達や保護者の方と会う機会がなかったので参加してよかった」「これからも継続して開催してほしい」「お花見、夏まつり、BBQ、クリスマス会などしたい」「聴覚障害を持つ中高生や大人の人と話せる機会がほしい」など、貴重な感想をいただきました。帰り際には「みんな

など公園にも行きたいな！」と、子ども達からも希望が出されました。

子ども達の笑顔、それを見ながら保護者の方たち同士もお話しされている様子や、頂いた感想から、こういった場所が必要なのだということが改めて感じました。開催に協力いただきました方々に大いに感謝しつつ、今後も2回3回と回を重ねるごとに参加者が増えることを願うばかりです。次もまた楽しんでもらえるような企画を考えていきます。

(高木 恵理)



▲色んな形のシャボン玉ができたよ

体のしくみを知って、負担のない生活を

第4回社会生活教室 洲本市健康福祉館

8月11日に第4回目社会生活教室を行いました。今回のテーマは「体のしくみとストレッチ」ということで洲本市健康福祉部介護福祉課より作業療法士の柴峠氏を講師にお迎えし、お話しいただきました。

腰に負担のかかる姿勢を避ける

腰痛には大きく分けて神経が圧迫され痛みが起こる「特異的腰痛」と原因を特定できない「非特異的腰痛」と2種類があり、腰痛の85%が後者を占め、ぎっくり腰や長く続く慢性腰痛などはこれにあたります。また、体は全身の筋肉で繋がっており、腰の痛みから肩にまで痛みがでます。生活習慣で腰に負担のかかる姿勢を長時間続けると腰痛は悪化します。悪化させない為には日頃から座



▲自分に合ったストレッチで無理なく体をほぐしましょう。

る・歩く・重いものを持つ姿勢などに注意するよう心掛けることが大切ですと柴峠氏。ストレッチは自身にあった運動の方法を知り、無理をしない事が大事です。参加された橋本津多子さんは、「最近、肩が痛くて気になっていたのでとても勉強になった。職場の休憩時間にも同僚とストレッチをやってみたく」と感想を述べられました。

(楠本 恵利子)



玉ねぎ収穫感謝祭で収穫売上の発表

「玉ねぎ35トン生産出荷・給料アップにつなげる」

山野さん（91歳）が毎月の利用者会議で発言します。「手の指を二本たて、次に一本の指を折り曲げ、残り一本、両手を下げて荷物を両手で持つ格好、両手を上に向けパット開くと身振りで訴えます。要するに毎月給料が2万円です。その内1万円が事業所に食費・送迎費等で支払い手元に残るのが1万円。」

中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター



〒656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992

これで一か月の食材を買ったら足りない、給料を上げてほしいとの訴えです。昨年からは毎日出されていきます。山野さんは農業班で若い人に負けないくらい頑張っています。給与アップの為に毎年収入を二倍にしようとして頑張ってきました。今年も玉ねぎを昨年の二倍栽培し販売することができましたので今年の7月から月最高1万円のアップができました。給料袋から3万円が出てくるとニコニコ顔に変化し喜ばれました。今後も利用者の皆さんの生活基盤を支える為にみんなで収入アップに努め給料が上がるように努めたいです。（藤崎周平）



平成29年度淡路障害者自立支援協議会  
サービス管理責任者研修会に参加して

8月25日（金）10時30分から12時30分、淡路市一宮ふるさとセンターでサービス管理責任者連絡会研修会に参加しました。講師は、関西福祉科学大学の津田耕一氏が「サービス等利用計画・個別支援計

画について」のお話をいただきました。正直、初めて聞く言葉や内容で、難しい所がありましたが、日々の支援の参考になりました。1、利用者さんとじっくり向き合い信頼関係を築いていく。2、利用者さんの情報を職員同士で共有する。自分の出来ることからしていきたいです。（おのころの家支援員 田中ひとみ）

～神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会の状況～

神戸新施設準備室から進捗状況をお伝えします。

- 1 設計士と委託契約を締結  
7月22日理事会において福祉施設設計管理に実績のある米谷設計事務所（宝塚市）と契約を結びました。
- 2 細田神楽町街づくり協議会が施設建設計画に合意

8月24日に開催の同協議会では福祉法人の施設整備により同意が得られました。建設計画の説明では、これまで通り地域の福祉課題にも取り組める施設でありたいとし

- ① 就労継続支援B型「ふれあい食堂（仮称）」は孤食など食に関わるニーズにも応えたい、
  - ② 防災に関して80%に上る市営住宅の高齢者・病者などの緊急避難のスペース確保、配給水容器などの備蓄に留意、街づくり活動を共に進めたい。
- 全体として聴覚障害を持つ人の働く場所・居場所としての機能と地域の安心の拠り所としての機能を盛り込むため意見交換や交流の積み上げを強調しまし

た。神戸ろうあハウス・野村管理者からは各階の事業を説明しました。構想の実現には60坪では狭いのではないかと意見・助言も出されました。

- 3 社会福祉施設整備補助申請  
8月25日 来年度の補助申請を提出しました。今後申請内容の審査の一方、神戸市としての福祉施設整備予算の検討が始まります。

神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会から  
募金の到達点合計 30,199,520円（9月6日現在）  
神戸市内

NPO法人神戸ろうあ協会	20,000,000円
神戸ろうあハウス後援会	5,000,000円
神戸ろうあハウス親の会	1,000,000円
有志・個人寄付	2,876,125円

兵庫県下

豊岡ろうあ協会	500,000円
淡路聴覚障害者協会	800,000円
西脇ろうあ協会	23,395円

